**第２回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会緑整備部会記録《要旨》**

○日時　　平成２６年８月１２日（火）　１５：１５～１７：１５

○場所　　大阪府日本万国博覧会記念公園事務所　第１応接室

（吹田市千里万博公園１－１　万博記念ビル４階）

○議題　「万博記念公園将来ビジョン（仮称）」について

○出席委員等　　石川部会長、篠﨑委員（５０音順）

尼﨑専門委員、甲谷専門委員、養父専門委員、山本専門委員（５０音順）

○事務局　　府民文化部理事　ほか

**【開会】**

＜審議会規則第５条第２項の規定により、会議の成立を報告＞

＜府民文化部理事挨拶＞

**【議事】**

＜資料説明　資料３及び資料４＞

**石川部会長**

それでは、前回の部会で議論した「目指すべき公園像」。この辺りから、本日の議論を　　　始めさせていただきたい。

「資料４」の２９ページに「目指すべき公園像」という項目があり、基本理念などが記載されているが、これと「資料３」とを見ていただいて、ご意見をいただきたい。

「資料３」と「資料４」の書き方が違うところがあるが、これはどういうことなのか。

**事務局**

「資料４」は、７月３０日に開催された第２回魅力創出部会において配布した資料と同じもの。本日の緑整備部会では、「資料３」をもとにご議論いただき、その結果を次回の本審議会までに事務局の方で「資料４」に反映させたいと考えている。

**石川部会長**

了解しました。それでは、「資料３」をもとに議論を進めていく。

「万博記念公園における『緑』の現状」というタイトルのページには、課題が６つ挙げ　　られている。これらの課題が真に解決すべきものなのか、そして、目標像をどのように設定するのかという方向で進めていくと、意見が出やすいのではないかと思う。

**養父専門委員**

整備にかける時間的スパンが不明確。５年なのか３年なのか。優先順位もあるから、全体の時系列が見えない。いつ着手していつ完了するのかが見えない。

「資料３」の「③－１」「③－２」「③－３」では、いろいろと整備することとされているが、バラバラで進めていくのか、全体を総合的に解釈して、例えば、国際観光拠点としての整備はどのような時系列で行うのかが、わからない。

**事務局**

万博公園は独立採算制で運営を行っているので、施設整備は順番に行う必要がある。

一番長いスパンであれば、森の姿を変えるのが2070年。大阪万博100周年を目標にして、順次、森の姿を変えていくということを考えてまいりたい。

一方、大阪万博50周年の2020年は、一つの目標。シンボルゾーンや日本庭園の中の一部などについては、先行的に整備を進めてまいりたい。

大きな施設改修を伴わない活動拠点の整備については、速やかに実施したいと考えている。

**養父専門委員**

方向性というのであれば、資料に反映させなければならない。独立採算で優先順位を　　つけた設備投資をしていくのだから。

事業性の高い、あるいは集客の多いゾーンに対して、優先順位をどうつけていくか、と　　いった具体的な方向性を示さなければならない。

**事務局**

各項目について、必要であるか否かというご意見をいただけたら、次回の緑整備部会までに、時系列や優先順位などを一覧表にしてご提示する。全体像をご判断いただけたら、　　　予算との兼ね合いもあるが、一覧等でスケジューリングすることは可能。

**尼﨑専門委員**

万博公園の中で、外国人も地域の人も含めた人々が集える空間を育成するための緑の役割とは何か。それを議論していくのだろうが、なぜ、資料に「密生林」「疎生林」「散開林」が　　　　出てきているのか。公園の全体像がわからない。

大阪万博終了後、約40年間、万博公園が何らかの形で変化しながら運営されてきて、　　課題は前回の部会である程度洗い出されていたが、全体構想について議論されていない。

**石川部会長**

時間軸に関しては、大変重要なご指摘であるので、次回の部会までに事務局の方で精査　して、全体のプログラムを出していただくこととさせていただきたい。

「資料３」には「緑の海のなかで進歩と調和を創造する公園」という表題の資料がある。この中で「公園の骨格となる緑を維持承継していく」をはじめとする６本の柱が立てられている。これについてご意見をいただきたい。

**山本専門委員**

「③『交流と創造』の拠点を整備する」と記載されているが、「太陽の塔」を中心にした当該ゾーンの整備について、具体的なイメージを持つ必要があるのではないか。

通常、拠点というと大人数が集まれるものを想像するが、「太陽の塔」周辺にキャパが　　あるのかどうか、万博記念公園駅前周辺まで広げる必要はないのか、その辺りの検討も必要ではないか。

**事務局**

シンボルゾーン全体を広場として活用するという意味の交流と、「太陽の塔」を見て　　　新たな文化を創作し、当該ゾーンから発信していただくような拠点にするということを考えている。

これは、国際観光という大きな観点からであるが、地域の方などの活動拠点については、図内にオレンジ色丸印で明示している。このような小さな拠点においても、多様なプログラムを実施したいと考えている。地域レベルであれば、自然観察学習館で実施している観察会や、森づくりの活動に携わっていただくという形もある。

広域的な活動としては、「森の舞台」や石を組み合わせてできている「春の泉」をアートの展示場などとして活用していただきたいと考えている。

また、運動施設であれば、例えばサッカー場が多数あるので、大会や子供の教室などを　　広域的に関西圏を対象として開催するような使い方をしていただけたらと考えている。

**山本専門委員**

概念としては理解できた。

しかし、資料の表現上の問題だと思うが「『交流と創造』の拠点を整備する」エリアが、資料では「太陽の塔」の下に黒丸で示された部分だけなのかと思ってしまう。

「資料Ⅲ」「万博記念公園の森づくりの背景」の項目に、整備理念として「緑に包まれた文化公園」という文言があるが、これは非常によいと思う。

将来ビジョン（たたき台）の中で、人類の進歩と調和を創造する公園という基本理念が　　あるが、万博公園はやはり緑を復元するということを主眼としているので、その部分が　　色濃く出てきた方が公園の本来の目的がはっきりするのではないか。そういう意味では、緑に包まれたという言葉はよいと思う。

本来そういう緑のポテンシャルがあって、建築物などといったものが映えてくる。この　表現は、踏襲していただきたい。

**石川部会長**

大変重要なご指摘。理念の部分なので、そこから全てがスタートする。ぜひ、もう少し　　深い議論をお願いしたい。

**甲谷専門委員**

「⑥外周部の緑の活用と保全」であるが、事務局説明では事業用定期借地権による土地　貸付を行うとのことであった。活用と保全と言いながら、活用は民間事業者がやってくれるという印象を受ける。府として、もっと運営に関与しなくてよいのか。

来年オープン予定の複合型エンターテイメント施設には、多くの方が訪れることになる　だろう。施設に来られた方をどんどん自然文化園地区に寄せるのか、逆に、連続していた　　緑が潰されることをどのように府が関与して保全していくのか。例えば、この先関西空港　から直通のバスに乗った外国人が多数訪れることになるかもしれない。次々に施設ができて緑が潰されていくことも容易に想像できる。その辺りが「活用と保全」という一言では　　　わからない。外部からのご意見もあると思われる。その対応策について、何か作戦を立てて　　　書いていただければありがたい。

**石川部会長**

もう少し、この資料に込められた意図や考え方を補足していただけたらと思う。

**事務局**

外周道路沿いの土地については、民間施設の誘致によって公園の魅力を向上させると　　ともに、公園の質を向上させるための収入も確保する。ただし、景観等に配慮しながら　　　行っていくという考え方をお示ししたもの。

府の関与としては、例えば定借であれば、ジャンルを絞って、公園にとってこのような　　魅力を付加する施設に来てください。ただし、このように緑を残してください。などと条件化して事業者公募することでコントロールしたいと考えている。

また、事業者公募時点で、公募条件にイベント実施や広報、プロジェクトの連携という形で自然文化園地区の中との連携を盛り込んでおき、運営の中で協議してお互いによい連携を保つという手法も考えられる。

**甲谷専門委員**

理解できた。しかし、今説明されたことが明記されていないと、府は定借で土地を渡して事業者は勝手に使って、50年後に木を植えて返しなさいという内容なのかと誤解するのではないか。

今ご説明いただいた仕組みを付け加えていただくとよいのではないか。そして、複合型　エンターテーメント施設をどう考えるかについては、このエリアにとっては非常に重要な　ことであると思う。スタジアムの完成により人の流れも一気に変わる。

エキスポランドがあった時と、なくなった今とでは全く人の流れは違う。そのあたりの　具体的なものが少し書かれてもよいのではなか。

**石川部会長**

「資料⑥」では、複合型エンターテイメント施設は白地になっている。薄い緑色が塗っている施設と白地の施設があるが、この違いは何なのか。

**事務局**

白地になっているのは、すでに貸借されているもの。

複合型エンターテイメント施設は、乱暴な言い方をすると、緑を楽しむことを目的としたお客様像ではないと思われる。この施設に来られた方について、自然文化園地区にどう　　やって来ていただくか検討が必要。

**篠﨑委員**

複合型エンターテイメント施設について、緑の中にある施設を造るという方向性で土地をお貸しになるのか。そのような縛りはあるのか。

先ほど事務局から、アジア・東南アジアを中心とした外国人観光客に来ていただくと説明があったが、私は、アジア・東南アジアの方々が万博公園の日本庭園に来られるとは　　　　思わない。彼らは、都市の商業集積的なあるいは娯楽的なところに魅力を感じておられる。少し違和感がある。彼らが何をターゲットに何を評価して来られるのか、万博公園が持っている花などの資源との整理が必要。

また、複合型エンターテイメント施設については、緑という視点からの魅力創出が必要。それらを資料に明記すれば分かりやすい。

**石川部会長**

魅力創出部会とも関係することであるので、検討してまいりたい。

**尼﨑専門委員**

資料を見ていて気づいたことがある。それは、万博公園を訪れる人は、自然文化園や　　　日本庭園を見にくるのではなくて、複合型エンターテイメント施設を中心とした外周部分の施設へ来るということ。

それを自然文化園地区へいかに誘導するか、そういうストーリーが見えてくる。万博公園の中心部分について、外周部分と一体となってどのように付加価値を高めるのかという余裕を持ったプランでないと「せこい」と思う。質の高い緑、質の高い空間、そこに集まって きた人が自然と吸い寄せられていく場とは何か。そういう具体的な話をしていかなければ ならない。

**石川部会長**

魅力創出部会では、阪大病院側に公園の出入口を設置すればどうか、そのことによって 公園の魅力が高まるのではないかというご意見がある。結構大事な考え方だと思うが、 緑整備部会としてどう考えればよいか、ご意見をいただきたい。

**尼﨑専門委員**

京都御所は通過動線になる。まさに生活の空間。それでも､日本国内や外国からたくさんの人が訪れる。自然な形の生活空間であっても､一方で質の高いものを求めて人々がやってくる。

どうすれば共存できるのか。私は通過動線があってよいのではないかと思う。発想の転換で、思い切った案を作ってもよいのではないか。

**石川部会長**

東京の新宿御苑では､道路建設の際、緑を守るためにトンネルを作った。トンネル整備に伴う地域交通の遮断を解消するため、公園で1か所だけ入園料を支払わずに通過できる場所をつくった。この園路は、たくさんの利用者があり、地域の方も喜んでいる。公園の入園者が増加したかどうかわからないが、どうしても入園料を支払わなければならないとしなくてもよい場所があってもよいのではないかという気はする。

**養父専門委員**

「万博記念公園の『緑』の現状」という資料には、６つの課題が挙げられている。

ところが、実際の方向性を示す資料①「公園の骨格となる緑の維持承継」には、具体的にどうしたいのか書かれていない。「当面維持」と書いているものもある。それなら課題に ならないし、どういう森にしたいのかということが見えてこない。

**石川部会長**

大変大事なご指摘。「当面」という表現はよくない。要するに核となる部分。

**事務局**

「当面」という表現を用いた理由は、希少種の維持というところにある。現在森には オオタカが生息している。現状維持は有効であろうという発想。しかし、常緑化がさらに 進行すると、現在生息する生物がいなくなるという怖さもある。たくさんの生物が生息する森として維持していきたいという思いがあったので、「当面」という表現を用いたもの。

**養父専門委員**

それも大事なことであるが、資料上、課題が挙げられている。そして、資料①で目標像を描いている。課題をどのように解決していくのかが見えないから、何年後にはどうなって　いるのかという時系列も見えない。「現状維持」とされているこのエリアの課題は何なのか。

**事務局**

収支バランスを維持していかなければならない公園であるため、収入が確保されなければ緑の質が維持できないことになる。収入の確保とのバランスの中で魅力づくりを考えて　　いかないと書きにくいという思いもある。

**養父専門委員**

架空の目標像を掲げても仕方がない。府民の皆さんにお見せする将来ビジョンなのだから、できるものを作らなければならない。収入がないからできませんという話はここには書け　ない。では、目標像はどうするのか、もう少し頭に入れないといけない。

**石川部会長**

これは緑整備部会の生命線。きちんと出さなければならない。本部会の最低限の所信表明ではないかと思う。

**養父専門委員**

奈良や京都には、アジアの方々が多く訪れるようになった。国内においては少子高齢化が進行している。公園来場者のターゲットはどんどん変わっている。それに応じた目標像、　　見直すべき方向性を策定しなければならない。10年後には「いや違いますよ」という話がいっぱい出てくる。

東京都は、2020年の東京オリンピックに向けて来場者層がどう変化するのか想定して　　いる。イスラムの方々がどの程度増えるか、レストランも入って、イスラム食をどの程度　　準備しなければならないのか検討している。

想定できないではなくて、概ねの方向性を持たなければならない。

**山本専門委員**

資料⑤「日本の文化を体感、感動を生む日本庭園（将来像）」について、大阪観光局の　　　ヒアリング結果が出ているが、印象的だった。「和をテーマとした観光ホテルがあれば、　　　1日滞在する観光客も確保できる」という内容。日本庭園を見るだけではなく日本の文化が体験できるという取組みは非常に面白い。海外の方はもちろん日本の方でも、日本の和を　複合的に体験することはあまりない。

資料⑦「園内移動手段の確保」では、観光バスがシンボルゾーンを周回するような図に　　なっているが、ここは歩行者に限る方がよいのではないか。

あと、これは大きな話であるが、緑のポテンシャルを文化的にも歴史的にも高めることが、万博公園のよいところ、魅力になってくる部分ではないかと考える。

**尼﨑専門委員**

人々が「ここにいたいな」「行ってみたいな」という気持ちになる空間は、日本庭園だけではなく、シンボルゾーンも自然文化園もきっと同じ。山本専門委員がおっしゃったのは、そういう中でも日本文化が味わえることは素晴らしいということだと思うが、これはなか　なか難しい。レストランであれば、本当においしくなければならない。人が安心できると　　いうか、何となく惹かれる。そういう質の高さが万博公園全体として必要。

公園来場者のターゲットを絞って外周部分には施設を造ってたくさんの人に来て　　　もらって、中心部分には非常に質の高いものがあるという、そのくらい非常に余裕のある　日本庭園の位置づけ、あるいは、日本庭園だけでない位置づけが必要。

日本庭園は静かに座って鑑賞することもあるが、にぎやかに園遊会を開催する場所でも　あった。ぐるりと歩きながら楽しめるものでなければならない。

万博公園の日本庭園は広大。来園者それぞれが、それぞれの楽しみ方ができるもので　　なければならない。少しだけ見て帰ってもよいし、1日いても楽しめるようにしなければ　　ならない。

そのためには、質の高い、安心で魅力のある日本庭園の位置づけが必要。各所に質の高い食事や日本庭園の技術が楽しめる場所、プログラムが必要。そして管理。有名な人が造ったということではなく、清掃が行き届いている。愛情が込められている。そういう空間は人を惹きつけるものがある。人の手で一生懸命管理する。ベーシックなことであるが、それは　　忘れてはいけないこと。

**甲谷専門委員**

資料④「広大な広場であるシンボルゾーンから文化を発信」について、今回は、シンボルゾーンから文化を発信するために緑をどうすればよいかという話をすべき。文化を発信するために施設を造ってバリアフリーにするなど、色々書かれているが、これは戦略と建築的な話であって、緑といえば、バラ園が少し書かれているだけ。そこは議論しないのか。緑と　　して何か整備するということではないのか。お祭り広場の部分は、すべて緑にしてしまおうということなのか。

**事務局**

一つのイメージとして、そういう形があってもよいのではないかということで、お示し　したもの。

**甲谷専門委員**

了解した。この案がよいかどうかは別として、現状、この部分は建築的には動線がむちゃくちゃになっている。動線をこのように整理することはよいことだ。

**養父専門委員**

シンボルゾーンから発信する文化とは、だれに何を発信するものなのか、見えてこない。整理が必要。もっと日本文化を凝縮して発信するには、目標像が見えないといけない。文化という言葉を非常に軽はずみに言っている。

**甲谷専門委員**

少し乱暴な言い方だが、大阪城公園。あれは大阪城という観光地を見せるための公園。　　あれは大阪城という文化。

**養父専門委員**

私は文化とは思っていない。ここでいう文化とは何なのか。要するに、方向性を持って　　議論したものがあればよいが、何もない状態で、何もなく進めていくのは違和感がある。

**甲谷専門委員**

私は、イメージとしては「太陽の塔」がメインで、大阪城と同じように見れば観光施設としてわかるかもしれない。

**養父専門委員**

だとしたら、恐らくそれは「太陽の塔」。「太陽の塔」を文化として発信したいということなのか。

**甲谷専門委員**

大阪城が日本の城郭建築という文化、そして観光も兼ねた文化の発信拠点であれば、万博公園も「太陽の塔」という芸術作品を文化として発信するということ。

**養父専門委員**

そうであれば、明記すべき。

**石川部会長**

緑整備部会としては、緑の海の中にそびえたつ「太陽の塔」こそ文化ではないかと意思　　表示すればよいのではないか。

**尼﨑専門委員**

水と緑は切り離せない自然要素。シンボルゾーンにおける水と緑の関係をどうデザイン　するかは重要なこと。緑整備部会として、水と緑で一つの空間づくりをすれば「太陽の塔」がシンボルとして芸術作品として活きてくると思われる。

**石川部会長**

資料②の「水系の保全の活用」について、万博公園は水系が分断している。将来ビジョンで節目とされている2020年までの実現は無理だとしても、将来的にどうするのかという　　ビジョンは、緑整備部会として持つべきだと考える。

日本庭園と自然文化園の水系が、現在は道路によって分断されているので、これを　　　つなげてみればどうか。東京都の浜離宮恩賜公園の水の見せ方は素晴らしい。水路を船で　移動するとか、体験できるメニューなど検討できないものか。アクティビティと絡める必要があるのではないか。

資料④「広大な広場であるシンボルゾーンから文化を発信」について、シンボルゾーンの軸は「過去と未来をつなぐ軸」という時空を越えたメッセージを込めることで、より深みが出ると思われる。その際、国立民族学博物館、大阪日本民芸館、日本庭園中央休憩所前の　　３つの施設前を「集いの広場」として大型休憩テントを設置する案になっているが、これらの施設の前庭となる場所であり、テントの設置は好ましくないと考える。

シンボルゾーンが周囲から切り離された感じがする。周囲とも融合するようにすべき。

本日は、「資料３」についてご意見をいただいた。

なお、事務局におかれては、時間軸についてしっかりと整理をしていただきたい。また、森をどうするのかという目標像の整理もよろしくお願いする。

**事務局**

本日は「資料３」についてご議論いただいたが、その内容を「資料４」の将来ビジョン　　　骨子たたき台に反映させ、8月26日の審議会で審議していただきたいと考えている。　　　そこで中間報告として取りまとめをしていただき、我々も府議会に説明してまいりたい。

以上で本日の部会を閉会させていただきます。長時間にわたるご議論、ありがとうござい　　ました。

以　　上